

令和4年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針		(1) 主体的に学ぶ姿勢を養うとともに、確かな学力を定着させる (2) 豊かな人間性を育み、共感や連帯を共有できる人間力を養う (3) 元気のでる、さわやかな学校づくりに取り組む		
昨年度の成果と課題		令和4年度の重点目標	具体的目標	
① 生徒の自己実現と希望進路の達成に向け、これまで以上に組織的、体系的に取り組める態勢づくりを推進していく。 ② HP等での発信により、教育活動への理解は保護者、地域にも進んでいる。今後は、より広範囲な外部との連携に取り組む、生徒のコミュニケーション能力の育成に努めたい。 ③ 「同和教育を中核にした人権教育」に取り組み、より多角的視点から人権教育、同和教育を進めて行く。特に、同和教育では「かかわる同和教育」を推進していく。		○ 進路希望達成プログラムの推進 ＝キャリア教育の推進 ア 進路希望の確立 イ 基礎学力の向上 ウ 自己表現力の向上 エ 豊かな人間性の育成 ○ ICTを用いた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教員の授業改善のための時間を確保し、また生徒一人ひとりが課題を設定して自ら学ぶ時間を確保するため、勤務時間の適正な管理や業務の見直しを行い、時間外勤務の削減に取り組む。	(1) 進路希望の確立に向けて基礎学力の向上 ・家庭学習の習慣化 ・効果的な模擬試験の運用 ・大学入学共通テストに向けた対策を充実 (2) 自己表現力の向上を目指すキャリア教育への取り組み ・総合的な探究の時間、LHRの計画的活用 ・修学旅行での体験的活動の実施 ・生徒会活動の充実 (3) 豊かな人間性の育成に向けて地域との連携 ・授業公開や学校行事で開かれた学校づくり ・PTA活動や事業との連携 ・地域の中学校やコミュニティとの連携 (4) 学校閉庁日の設定や学校行事や部活動の活動時間の精選、諸会議の時短・削減等に取り組む。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
学習指導	始業前10分間の充実	・朝読書を通じて、本に親しみ、読解力の育成と集中力を身に付けさせるとともに、定刻前着席や落ち着いた学習態勢を作り出す。 ・読書の他に、小テストなどを行い、基礎学力の定着に活用する時間としても利用する。		A A
	効果的な年間計画	・年間の行事や授業を効果的に組み込み、効率よく学習を行えるような計画を立て、見直し修正を行っていく。		B B
	中高間の連携	・ICT活用推進委員会、ICT推進委員で連携をとり、研修の実施を通して効果的な活用方法を学ぶ。		B B
進路指導	可能性を広げるための、基礎学力及び自己表現力の向上	・授業、朝読書を通して、様々な分野に関心を広げる。 ・1、2年生全員参加の模擬試験の活用や長期休業中における進学補習の実施。 ・小論文指導及び面接指導を通して自己表現力を向上させる。		B B B
	進路の方向性を深める	・進路ガイダンス及び進路講演会、1年生全員参加の新潟大学オープンキャンパスなどの進路行事を計画実施する。 ・オープンキャンパス、企業見学、看護・医療・福祉体験など各種体験の主体的な参加を促す。 ・個別面談およびLHRなどでの進路調べ学習や進路適性検査を適宜実施する。		A B A
	希望進路達成に向けて保護者との連携及び補充的学習	・進路の手引きや学年便りの発行、保護者説明会を通して情報提供を行う。 ・保護者面談や三者面談などを活用して、保護者の考えと生徒の考えの相違について理解を深める。 ・放課後補習、個々の適性・希望に応じた個別学習指導の充実を図る。		A A A
	家庭・地域との連携を深める	・保護者との連絡を密にして、欠席や遅刻、早退等の連絡を徹底する。また生徒の状況を常に家庭と共有し、連携して指導する体制を作る。 ・生徒指導連絡協議会など、情報交換の場を定期的に設定する。 ・学校評議員会や地域の声を聞く会等で広く意見や情報をいただき指導に活かす。		B A A
生活指導	基本的な生活習慣の確立を図る	・問題行動の予防を組織的・継続的に実施する。 ・学期毎の服装等の指導や、身だしなみの向上を図る。 ・職員が積極的に挨拶を行い、自ら挨拶できる生徒を育てる。		A B B
	マナー、交通ルール等遵守し安全意識の高揚を図る	・校外での立哨指導や自転車の駐輪指導、生徒指導講話や集会時に交通安全指導を行うことにより、交通ルールやマナーに対する意識を高め、交通事故ゼロを目指す。適宜各HRでの指導を依頼する。		A A
	生徒会活動の活性化	・活発な生徒会行事を展開する。 ・生徒会行事の企画・立案・運営にて全校生徒の参画を高める。 ・他校との交流・情報交換を深める。		A A A
開かれた学校づくり	部活動の活性化を一	・積極的な加入をすすめる、魅力ある活動の向上を図る。 ・日常活動や大会等への積極的な参加で、活動状況の向上を図る。		A B
	家庭・地域との連携の充実を図る	・「地域の声を聞く会」等での意見を汲み取れる態勢づくり。 ・様々な場面でのPTAと連携した活動の充実化。 ・学級便りやメール配信システムなどを利用した、家庭と学校の連携強化。		A A A
	本校情報の広報活動の充実を図る	・ホームページの一層の充実化。 ・中学校との連携を見すえた授業公開の拡充。 ・より一層の学校行事等の地域への広報。		A B B
成果	コロナ禍で活動が制限される中、授業公開や行事を一部公開した。また、柏崎市と連携しSNSで市の魅力を発信したり、地元大学とも連携することができた。			総合評価 A